第10回獣医学教育改革委員会会議

ー北海道大学ー

(平成26年9月9日)

獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力会議を終えて

北海道大学大学院獣医学研究科
特任教授　伊藤茂男

獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議「議論のまとめ」とその概要
平成26年6月

（7月8日文部科学省HP）

1. 教育改革の進捗状況のフォローアップと今後の推進方策について
2. 今後の獣医系大学の入学定員の在り方について
3. 獣医学分野における大学院教育の在り方について

第1期 獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議 （座長：唐木英明先生）

目的

社会的ニーズの変化や国際的な通用性の確保、獣医師の活動分野等の偏在など我が国における獣医学教育をめぐる状況を踏まえ、**大学における獣医学教育の在り方について**調査研究を行い、獣医学教育の改善・充実を図ることを目的とする。

調査研究事項

（１）社会的ニーズ等に対応した教育内容の在り方について
（２）教育の質の保証の在り方について
（３）教育研究体制の在り方について

第1期 調査研究協力者会議

平成20年12月17日 第1回
平成21年　1月21日　第2回
　　2月12日　第3回　小委員会設置（獣医学教育の状況分析）
　　3月16日　第4回
　　4月27日　第5回
　　7月22日　第6回　小委員会の結論
　　8月11日　第7回　　8月30日 衆議院議員総選挙（民主党政権誕生）

共同教育新聞報道：北大-帯畜大、山口大-鹿児島大、農工大-岩手大

平成22年　3月31日　第８回　　4月20日宮崎県で口蹄疫発生
　　5月11日　第９回　まとめ案　7月27日口蹄疫非常事態宣言の全面解除

　　11月17日 第１０回 まとめ案の修正
平成23年　3月　7日 第１１回

[今後の獣医学教育の改善・充実方策について]

小委員会の分析結果

（我が国の獣医学教育における課題）

➨ 導入教育の不整備

獣医師の職域や社会的役割、関連法規、獣医倫理等を扱う導入教育について、各研究室の紹介に留まるなど教育内容が不十分である。多くの大学で導入教育の教育内容を統括する教員がいない。そのため、学生への動機付けや当該大学での獣医学教育に対する理念を伝える機会が十分確保されていない。

➨ 実務教育の不足

基礎・応用・臨床の全分野を通して、講義科目に比べて実習科目の教育内容が不十分である。実務教育の充実の観点からは、実習内容の充実とともに家畜病院・食肉検査場・農業共済等の関連施設におけるインターンシップや施設見学の充実が重要であると考えられるが、衛生上・管理上の問題や受入れ要件の未整備等の問題から、そうした機会を十分の確保することが困難である。

➨ 新たな分野への対応

基礎分野等の学問的に歴史のある分野に比べ、近年の学問の進展や社会ニーズの高まりから新たに必要性になった分野は、教員の不足や共通テキスト等の未整備等の理由から、教育内容・教育体制がともに不十分である。

➨ 大学間の教育内容のばらつき

我が国の獣医系大学全体を通じての共通的な課題の他に、大学ごとに教育内容にばらつきがある。

今後の獣医学教育の改善・充実方策について」第一期の結論：意見のとりまとめ

- **獣医学教育を取り巻く状況の変化**
  - （１）社会ニーズに対応した人材の高度化
  - （２）獣医師養成における国際通用性の確保
  - （３）我が国の獣医師の現状を踏まえた対応
  - （４）我が国の大学教育改革を踏まえた対応

- **改善の具体的方策**
  - （１）モデル・コア・カリキュラムの策定等による教育内容・方法の改善促進
  - （２）獣医学教育の質を保証する評価システムの構築
  - （３）共同学部・学科の設置など大学間連携の促進による教育研究体制の充実
  - （４）臨床教育の充実に対応しうる附属家畜病院の充実
  - （５）新たに必要性が高まった生命科学分野の教育研究の推進
  - （６）教育研究環境の充実に向けての国の取組支援

国際水準の獣医学教育の実施に向けた改革工程(イメージ)

※　工程に示した期間は、医学・薬学等の事例を参考にして、あくまで目安として示したもの

H23 獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議による提言

教育研究体制整備

H23
共同教育課程の検討
外部機関との連携
教育研究体制の充実
H24
共同学部/学科実施
鹿児島・山口大
帯畜大・北大,
岩手大・農工大

→ 教育研究体制の充実

共同学部の推進等、
更なる体制の充実

モデルコアカリキュラム策定・実施

H23
コアカリの策定

H24
各大学における
カリキュラムの改革

→ 教育内容・方法の改善

H28頃
コアカリの改訂

分野別第三者評価導入・実施

H23～
評価の在り方の検討
評価基準案の検討
H24～
評価基準案の提示
自己評価の試行
5年後～
評価基準の提示
実地体制等の決定
評価基準の最終確定
トライアル
第三者評価

H32頃
本格実施

共用試験導入・実施

H23～
試験内容、実施体制
実施方法等の検討
H24～
試験内容案や評価
基準案の提示
試験内容等の決定
試験試行開始

→ 臨床教育の改善

H28頃
試験の正式実施

充実した獣医学教育の実施、自律的な教育改善を促す質保証システムの構築
※　各大学の取組の成果を検証し、結果を公表するなど、その確実な取組を推進していく必要

☆　国際水準の獣医学教育の提供

第２期 獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議（座長：吉川　先生）

第 1回　平成24年 3月13日

【１】教育改革の進捗状況のフォローアップと今後の推進方策

○ 教育改革工程表の進捗状況のフォローアップについて

○ 実習室等の教育環境及び附属家畜病院(動物病院)の充実、外部専門機関等との連携など、臨床教育等の充実に向けた取組について

○ 国際水準の獣医学教育の実現と高度な実践力を有する獣医師の育成に向けた、更なる教育改革の推進方策について

【２】公務員・産業動物分野の獣医師の育成に向けた今後の獣医師養成の在り方(入学定員の在り方を含む)

○ 獣医師を取り巻く状況、各大学における教育状況について

○ 公務員・産業動物診療分野の獣医師の育成に向けた教育改善方策の検討について

○ 今後の獣医師の計画的養成の在り方(入学定員の在り方を含む)

【３】獣医学分野における教育者・研究者養成の在り方

○ 各大学院における教育状況について

○ 国際水準で活躍する教員・研究者の養成・確保に向けた大学院教育の在り方

第2期　調査研究協力会議

平成24年

3月13日 第 1回　現状について（コアカリ、共同教育、相互評価など）
4月23日第　2回　獣医師育成環境整備事業、感染症対策及び産業動物臨床の実習システム
(東大・岐阜大聴取）、**（東大動物病院聴取）**
8月　3日第　3回　「教育実施状況調査」に関する中間的な報告
（モデル・コア・カリキュラムの対応を中心に）
9月11日 第 4回　公務員獣医師に関する検討、国際的な動向**(海外調査報告）**教育状況分析WG設置
10月22日 第 5回　産業動物獣医師に関する検討　**(NOSAI:聴取）**
11月30日 第 6回　公務員獣医師確保の状況**（公衆衛生と家畜衛生：群馬、愛媛、三重、北海道）**
12月14日 第 7回　卒業生の進路動向 、入学率と就職率（地域、大学別）
12月16日衆議院議員総選挙（自民党政権の誕生）

平成25年

1月16日 第　8回　国際的な動向**（OIE、聴取）**、企業の獣医師確保**（製薬聴取）**、WG分析結果 の検討
1月31日 第　9回　今後の獣医療供給の動向**（アニコム聴取）**、獣医師の計画養成の在り方
2月26日 第10回　獣医学教育の改善充実(愛媛）、論点整理、
3月26日 第11回　これまでの論点整理（中間答申）　**パブリックコメント(4月-5月）**
9月17日 第12回　国民からの意見、大学院教育の充実**(東大、岐阜-鳥取**）、教育実施状況の追加調査
10月22日第13回　大学院教育の充実**(製薬業界聴取）**、教育実施状況の追加調査、
12月16日第14回　教育実施状況追加調査の結果、大学院教育の充実**(宮崎大、養豚企業）**

平成26年

1月31日 第15回　獣医学教育の改善充実**(食品企業:聴取）**、入学定員の在り方について
2月20日 第16回　獣医学教育の改善充実、大学院教育の充実、入学定員の在り方について
3月14日 第17回　大学院教育の充実、入学定員の在り方
4月24日 第18回　概要、まとめ

1. 教育改革の進捗状況のフォローアップと今後の推進方策について

1）各獣医系大学は、モデル・コア・カリキュラムの着実な実施に向けて努力を重ねており、また他分野に先駆けて第三者評価の準備を進めるなど、一定の進捗が見られるところである。
しかし、特に国立大学の共同教育課程については、完成年度に先立って、その教育効果・学習効果について積極的に検証する必要がある。

2）その一方で、臨床教育の更なる充実や、教育体制の強化は引き続き重要な課題。また獣医学教育の国際通用性の確保に取り組むことも求められる。

2. 今後の獣医系大学の入学定員の在り方について

１）獣医師の養成規模にかかる検討を行うに際しても、国際水準を目指した獣医学教育の改善・充実が最優先の課題。特に学部段階の獣医学教育が獣医師免許の取得を主たる目的とするものであることに鑑み、獣医系大学の定員管理の仕組みは継続すべき。また、必要な支援も行いながら、各大学に対して定員管理の厳格化の努力を求める。

2. 今後の獣医系大学の入学定員の在り方について（続き）

２）今後の獣医系大学全体の定員の在り方については、定員管理の仕組みは維持する一方で、具体的な定員数については、診療獣医師だけでなく、ライフサイエンスなどの新たに対応すべき分野も含め、種々の増減要因等を総合的に勘案して決定することが望ましいと考える。

　また、獣医学教育をめぐる様々な社会環境は、今後とも絶えず変化することが予想されるところであり、定員の在り方については、その状況に応じ、適宜適切な時機に見直しが行われることが必要である。

獣医学科の学生定員に関する答申など

平成3 年5月：大学審議会答申

医師、歯科医師、獣医師、教員及び船舶職員の養成については、おおむね必要とされる整備が達成されているので、現行計画に引き続き、その拡充は予定しないこととするが・・・・

平成13年12月：総合規制改革会議答申

大学・学部の設置などの認可に対する抑制方針の見直し
第三者に対する評価認証制度の導入

平成15年3月：告示（大学の設置などに係る認可の規準）

歯科医師、獣医師及び船舶職員の養成に係る大学等の設置若しくは収容定員増又は医師の養成に係る大学等の設置でないこと

平成17年1月：中央教育審議会答申

抑制方針が維持されている医師、歯科医師、獣医師、教員及び船舶職員の５分野の取り扱いについては、人材需給見通し等の政策的要請を十分に見極めながら、抑制の必要性、程度や具体的方策について、必要に応じて個別に検討する必要がある。

3. 獣医学分野における大学院教育の在り方について

１）学部段階の教育体制の整備を効果的に進めるため、大学院の充実は極めて重要。その際、特に臨床分野の教員の確保を念頭に置くことが求められる。また、大学院生がＴＡやＲＡとして教育に関与することは、学部学生の教育の充実のみならず、将来的な教員の確保を図る上でも大きく寄与するものであると考えられる。

２）大学院教育の充実は、臨床獣医療の専門性の向上という視点からも強力に推進すべき。ただし、大学院という仕組みは、博士論文の作成を求められる等の点で、既に社会で活躍している臨床獣医師にとってハードルになりうる。このことも踏まえ、大学として、現場の獣医療ニーズに応えうる卒後教育の在り方について構想することも必要である。

3. 獣医学分野における大学院教育の在り方について（続き）

３）獣医学を修めた者は、複雑な生命現象を総体的に把握する力を身につけていることから、獣医系大学院には、動物の健康の維持に役立つ研究にとどまらず、基礎研究の成果を実際の人間の疾病の治療に適用する局面など、ライフサイエンス研究への貢献が期待される。
その際、ライフサイエンスの担い手の育成という観点からは、隣接分野との協働に留意するとともに、修士課程の活用も視野に入れることが求められる。

４）進学者の確保を図るため、学部段階からライフサイエンスに関する学生の興味をこれまで以上に喚起できるような教育を行うなどの積極的な取組が必要である。

将来に向けた課題の整理

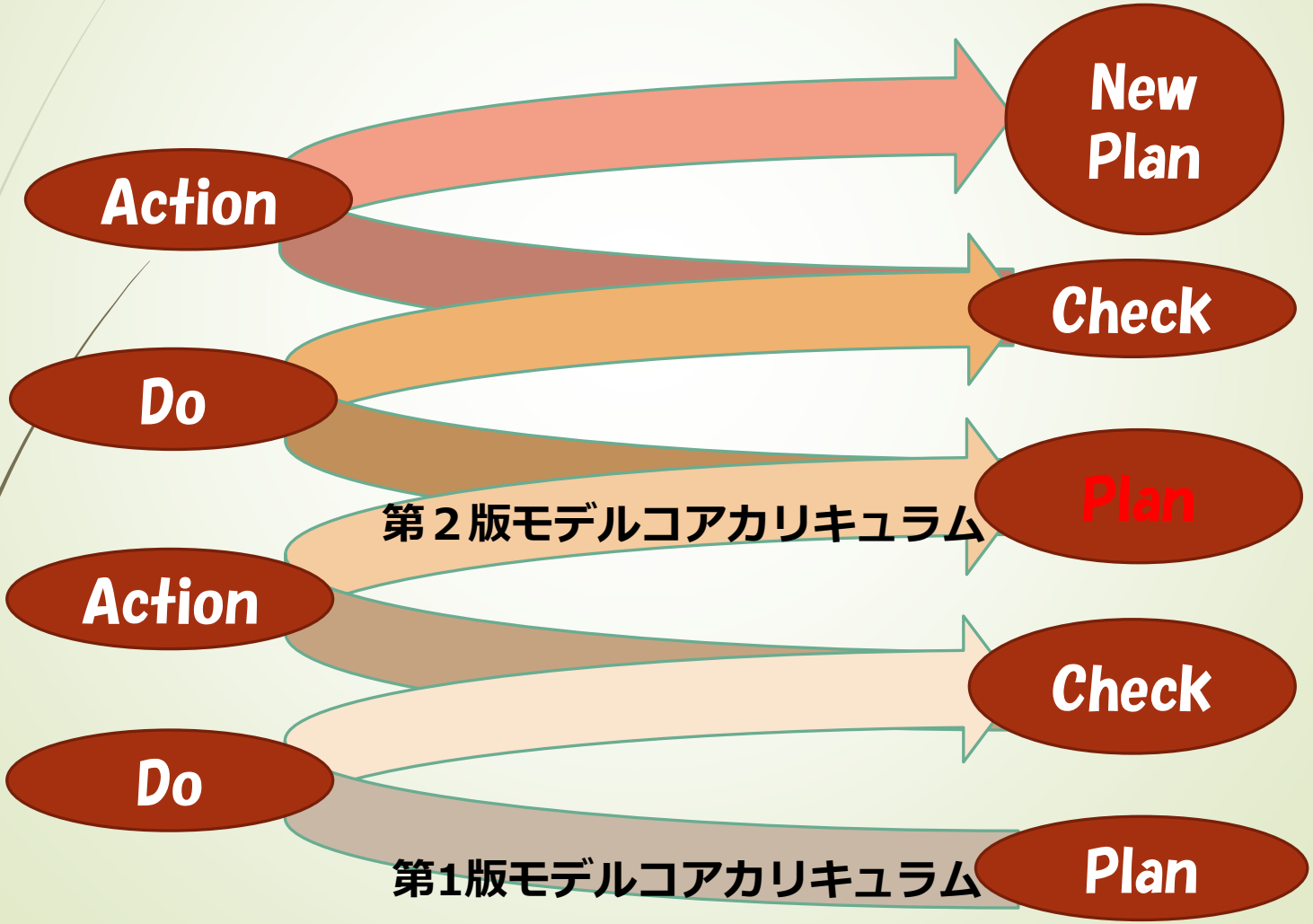
１）獣医系大学が、二次診療機能や高度医療機能で地域に対して貢献できるという点や地域・近隣の現職獣医師に対する卒後教育拠点としての機能を果たしうること、感染症事案発生時における地方公共団体の支援等の機能を果たしうることも挙げられる。

２）獣医系大学の在り方について考える際は、単に定員の増減について検討するのみならず、その全国的な配置についても意を用いる必要がある。

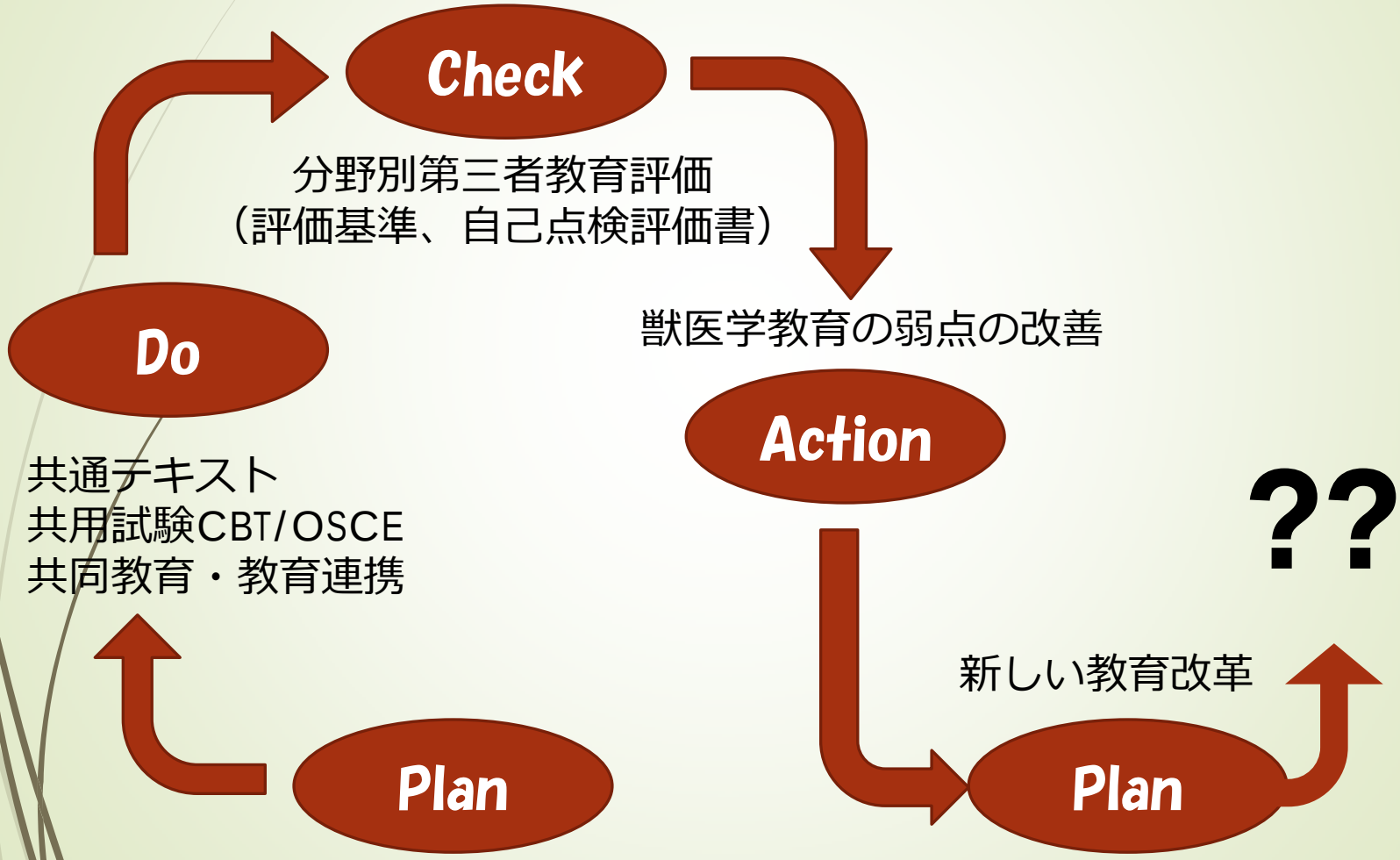
３）議論の過程では、獣医学に関する教育研究資源の地域偏在を解消するという観点に立ち、地域特性や既存大学の強みや特色も踏まえながら、将来的には、ブロックごとに大学院を集約的に整備することも考えられるとの意見もあった。

４）特に国立大学は、現行の共同獣医学課程の枠組みといわゆる連合大学院の枠組みとの間にずれが存在することを認識しつつ、より効果的かつ効率的な教育の実現に向けた自律的な努力を行うべきとの指摘もあった。

獣医学教育改革の現状
1．PDCAサイクル
ー獣医学教育モデル・コア・カリキュラムー



一大学における獣医学教育改善のPDCAサイクル一



2.　獣医学教育改善に関わる予算

- 特別教育研究経費（北大）（H21-23)
- 戦略的大学間連携支援プログラム（岐阜大、鳥取大）（H21-23)
- 先導的大学改革推進委託事業（北大）（H22-23)
- 口蹄疫等家畜伝染病に対応した獣医師育成環境の整備事業（H23-H25）
- 大学改革強化推進事業（北大、帯畜大、山口大、鹿児島大）（H24-H28）
- 大学間連携共同教育推進事業（東大、日獣大、麻布大、日大）（H24-26）
- 国際展開力強化事業（北大、東京大、酪農大）（H25- 29)
- 公共獣医事に係る臨床教育の実施体制構築事業（H26-28）
- 国立大学：獣医学の教育連携のための双方向遠隔授業システムなどのインフラ整備

今後の教育改革の方策と予算獲得？？

新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて

～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）（抜粋）

（平成24 年8 月28 日 中央教育審議会）

【文部科学省等に求められる取組】

- 大学の教育課程を能力に着目して捉えることを前提に、授業科目に着目した現在の各種国家資格等に係る教育課程指定の在り方について、文部科学省として研究を速やかに進める。また、学士課程教育に求められている専門職業人養成においても、専門的知識の修得にとどまらず、批判的、合理的な思考力など、必要な能力についてその重要性を踏まえ制度の検討を進める
- そのような能力の育成に向けた各大学の取組を促す。なお、専門職業人養成のいくつかの分野において進められている分野別到達目標や分野別第三者評価の策定などの分野別質保証の取組*を支援する。

注）* 医療系人材養成、獣医師養成、技術者養成の分野においてこのような取組が進められている。

調査研究協力者会議について

学問分野別

医学教育の改善・充実
歯学教育の改善・充実
　　医学・歯学教育の在り方
　　学士を対象とする医学・歯学教育の在り方
薬学教育の改善・充実
獣医学教育の改善・充実
大学・短期大学における看護学教育の充実
教員養成系学部等の入学定員の在り方
法学教育の在り方等

高等教育全体

国立大学等の独立行政法人化
大学における学生生活の充実
学生のボランティア活動の推進
今後の育英奨学事業の在り方
留学生の在り方
国際的な大学の質保証
私学共済年金制度の在り方等

3. 獣医学教育改革の展望について

- **獣医学教育の国際化の推進および国際的な大学の質保証（教育の質保証）**

  獣医学だけの問題ではなく、他分野と競合。留学を必修単位にした大学もあるが、獣医学分野では地道に努力する必要がある。EAEVE認証に関する取り組みが始まっている。欧米の基準を分野別第三者評価に取り込んでいく必要がある。

- **能力の育成　⇒　自学自習能力の開発**

  獣医の分野では、First-day SkillsやDay One Competenciesを念頭に置いてコア・カリキュラムを作成した。さらにアドバンスト科目で診療・診断技術や実験・研究技術を欧米並みに高めることが出来る。さらに新たな知識を自学自習で獲得し、批判的、合理的な思考力の養成する。

- **卒後教育の充実**

  日本獣医師会が努力しているが、大学が推進すべき課題である。教員数の確保が必須であるが、系統的なカリキュラムを設定して提供すべきである。知識の高度化、異分野への再就職や獣医事から離れている獣医師の再教育も含めたカリキュラムの設定